

総合教育会議（第1回）会議録

1 開会年月日	平成29年4月27日（木） 午後3時
2 場 所	笠岡市役所 市長室
3 出席委員等の氏名	笠岡市：市長 小林嘉文 教育委員会：教育長 浅野文生 教育委員 谷 喜一朗, 三谷信恵, 石井啓弐, 藤谷幸弘
4 欠席委員等の氏名	なし
5 会議に出席した者の職・氏名	教育部長 井上洋一, 学校教育課長 高橋伸明, 教育総務課長 黒田英樹
6 議事案件及び会議の概要	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 小林市長 浅野教育長</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 小中一貫教育について</p> <p>まず、前回までの協議結果を全員で確認した。その後、小・中一貫校教育の今後の年度別実施内容を事務局が説明し、あわせて民間保育園経営者との懇談状況を報告し、それに対して意見交換する形で進められた。</p> <p><幼小中一貫教育の今後の予定></p> <p>①平成29年度：教育委員会での推進計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中一貫校モデルを作成（敬業学園と市内全体） ・子どもの数の予測・教室数の想定（現状の施設との整合） ・必要な予算措置の検討（小学校に幼稚園児を通わず場合、トイレの改修など） ・パンフレットの作成、各学校長・園長への概要説明 <p>②平成30年度：各一貫校での推進体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像, 目的, 目標の試作 ・教育課程試作 ・組織づくり（英語必修化も視野に入れたもの） <p>③平成31年度：一貫校に関する情報の公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区説明会の実施 ・パンフレットの作成（時点修正版） <p>④平成32年度：開校に向けた準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設, 設備, 備品等の整備 ・教育課程作成 ・目指す子ども像, 目的, 目標の作成 <p>⑤平成33年度：開校</p> <p><民間保育園経営者側の発言の主旨></p> <p>①幼・小・中のスムーズな連携を進めることは非常に良いことである。しかし、保育所に通っている子どもに対する視点が欠けている。</p> <p>②幼稚園に通うことの魅力が増すことにより保育所に通う子どもが減る事、つまり民間保育園の経営を圧迫することへの懸念。</p> <p>（意見交換）</p> <p>意見交換の主なものは次のとおり。</p>

市長：民間保育園経営者に対して市側はどう回答したのか。

事務局：現在でも80%以上が保育所に通っている。今後も幼稚園教育求める保護者と保育所での保育を求める保護者のニーズは明らかに異なっており、今の社会情勢を考えると保育を求める保護者が幼稚園を選択することは考えにくいと申し上げた。また、市長からは民間保育園経営者の了承が得られなければ強行することはない旨を伝えている。

市長：幼・小が一体化し幼稚園児と小学校の児童が同じ敷地に居て顔見知りになっているところに、保育所の子が入学してきても温度差があり上手く接続できないことを心配している。また、世間的に敬業校の附属の幼稚園で教育を受けていると言われることにより幼稚園へ通う事を選択する保護者が増えることを心配されている。特に「まや保育園」「笠岡保育所」「和光保育園」「若竹保育園」が強い反対をしている。

教育長：新しい指導要領案が示され、学校段階間の円滑な接続を行うようにとの事である。幼と小、小と中の接続を円滑に進める様に文科省が示しているのだから、我々としてはこのことを念頭に幼児教育を進めようとしているのだが、民間保育園経営者からは先ほども話が出ていたが保育所が置き去りにされているとの発言があった。

市長：笠岡市では従前、民間保育園に配慮してきた経緯がある。中心部は私立、周辺部は公立というように。なので敬業校が設立されれば園児を取られると怖れている。

教育長：民間保育園経営者が懸念を示されているが、委員の皆様はどのように思われますか？

委員：フルタイムで働く家庭では保育園を選ぶと思う。市立幼稚園が延長保育を行わない限り大丈夫ではないか。生活・仕事を維持しようとする変化はないものとする。

委員：私も同様に、市立幼稚園が延長保育を行わなければ変化はないと考えます。校長先生を始めとする学校関係者や保護者に幼・小・中一貫教育のビジョンの説明が必要であると思う。

委員：保育所と幼稚園は目的が違うと思う。私立の園長の心配も当然の事でしょうから、時間をかけて説明を尽くすようにしてあげてほしい。

委員：小・中一貫教育の具体的な構想を説明する必要がある。皆さんが言われるように保育所と幼稚園は目的が違うので、幼・小・中一貫校になった場合でも、今ある幼稚園が場所が小学校と同じ敷地になっただけであることを説明し納得してもらわなければならない。そのためにも、先ほど事務局から説明のあった今後の予定をしっかりと進めていただきたい。

市長：一点目、第7次の総合計画の素案をまとめて来年3月には市議会で議決をいただく必要がある。このため、今年度中には内容を確定する必要がある。

二点目、市内全域で幼・小・中一貫校をやるわけではない。施設一体型や分離型や隣接型など複数のパターンが出来る。それでよろしいか。

5月の第7次総合計画審議会で敬業校(案)を出そうと思っている。

委員：敬業校の場合は幼・小・中一体型になるかと思いますが、笠岡東中学校の場合は違う形態になると思うのですが。

教育長：おっしゃるとおり異なる形態になると思っております。小学校5・6年生と中学校を英語で繋ぐ教科担任制が考えられます。東中の英語科の教師が3人いるので小学校に派遣するようになると思います。このとき中学校に補充的に市費での英語科の教師の配置が必要になってくると思います。

(2) 学力向上について

事務局が今年度の取組を説明し、それに対して意見交換する形で進められた。

全般的事項

量と質を高める

⇒本年度もICT機器を活用した授業に力点を置く

授業内容の確認と指導

学力テスト等の実態把握と分析をもとに、的確な指示とPDCAサイクル活用

(補充授業)

①放課後学習サポート事業(継・新)笠岡西、新吉、大島、白石、北木、小北で新たに実施

②かさおかホリデーチャレンジ学習支援事業(継)

- ③かさおか夏チャレンジ学習支援事業（拡充）一部の小学校で5日間を全小学校で10日間に拡充
- ④かさおかサマーチャレンジ学習支援事業（継）
- ⑤中学校検定チャレンジ事業（新）英検、漢検、数検受験希望者の中学生に検定料1回分を無料で受検
- ⑥図書館サービス拡充事業（拡）2階の多目的室で学習可能。月曜と祝日も開館により利用可能日が60日増

井戸平左衛門賞創設

中学2年生を対象に勉学に励み、自らの知識・教養を高めると共に、思いやりの心やたくましさをもった他の模範となる生徒を表彰することにより、目標・目的をもって中学校生活を送ろうとする意欲や向上心の醸成を図る。

(意見交換)

意見交換の主なものは次のとおり。

市長：ICT機器の普及度は？

事務局：平成23年度から実物投影機等を整備してきていて、全ての普通教室に整備済み。

市長：今後の展開は？

事務局：平成26年度から教師用のタブレットを教室に1台整備済み。加えて教師用デジタル教科書を整備済み。ゆくゆくは児童・生徒1人に1台タブレットPCを整備してゆきたい。基礎基本の定着のためフラッシュ型教材も平成25年度から導入済み。

市長：島しょ部のLAN接続が悪いと聞いている。

事務局：今年度予算で無線LAN環境の調査を行い整備する予定で現在予備調査中である。

市長：一部の生徒にはタブレットが配布されている？

委員：一昨年の途中から神島外の小・中と島しょ部の小・中には配置されています。（82台）

市長：今後の展開は？児童・生徒が持ち帰って復習するとか緊急時の一斉連絡が可能になるとか活用方法が広がると思うが委員の皆様はどのようにお考えか？

委員：アメリカでは重い教科書ではなくタブレットに移行しているように聞くのですが、市長はアメリカにも居たことがあるそうですがどのような状況なのか？壊れてもすぐ予備の機械が配布されるのか・・・

市長：全ての学校を見たわけではないがそのように聞いている。整備は学校というよりもマイクロソフトであるとかのように会社からの提供だと思う。

教育長：タブレット導入は進めるべきか？

委員：推進すべきであると思うが、故障時に即対応できるようなICT支援がないとそこで授業が止まってしまうので、スムーズな対応ができることが条件となると考える。

市長：万一故障した場合、即時に対応できる状態でないと授業が遅れる子どもが生じるので一斉に整備は困難であるから段階的に整備を進めるのが良いと思う。

市長：検定試験についてはどうか？

委員：全員でしょうか？

市長：希望する生徒全員です。先生が生徒に声かけをしてもらい全員が受検してもらいたい。

委員：検定をきっかけに更に上を目指すようになったりすれば良いと思います。

市長：図書館サービス拡充についてはどうでしょうか？

委員：図書館内での飲食が禁止されていて外にカフェスペースを整備する話がありましたが、できれば室内で飲食が可能になればと思うが。

事務局：多目的室でお弁当を食べることができるようにしている。

委員：弟や妹がいて自宅で受験勉強ができない受験生に場所を提供していただけるようになり非常にありがたい。

委員：(井戸平左衛門賞創設について)日頃つらい思いしながら頑張っている子どもが表彰される機会が増えることは良いことと思う。

委員：中学2年生に限定せず対象にしたら良いのではないかと思う。

教育長：中1は入学したばかりで緊張して過ごしているし、中3は受験があつて気持ちがそちらに行っている中で、中2を対象とすることにした。

(3) その他

べいふあーむマラソン小学生の部の誤誘導について、その場での市長の判断・対応
正直で適切な対応であった。

最後のひとりを除いて全員が失格ということで報道におもしろく取り扱われたのが残念。

4 会議総括

(1) 幼・小・中一貫教育の推進について、敬業校に幼と小4までが一緒に通うことに民間保育園経営者が反対をしている事に対しては御理解をいただくよう説明を尽くしていく。


小中連携は英語教育を中心として進める。

(2) 学力向上に向けて各種施策があるなかで、ICT機器の充実、特に今後はタブレット導入をすすめていく。


7 会議の詳細	
8 閉会年月日	平成29年4月27日(木) 午後4時27分

上記会議のてんまつを記録し、関係図書を添付して、その相違のないことを証するため、署名押印します。


平成29年 8月29日

笠岡市長 小林 嘉文 

教 育 長 浅野 文生 

教 育 委 員 谷 喜一郎 

教 育 委 員 三谷 信恵 

教 育 委 員 石井 啓弼 

教 育 委 員 藤谷 幸弘 